

第8回新鋭俳句賞

正賞

士 篤 恒

庄田ひろふみ

士篤恒

- 1 王宮は島の高きに秋澄めり
- 2 鳥雲に線の鋭き解剖図
- 3 揉み合へる船と舳や青嵐
- 4 つばくろや低く揃へる街の屋根
- 5 船着ける街の裏側秋桜
- 6 噴水の吹かれて海へこぼれけり
- 7 冬麗やどこからも海見ゆる街
- 8 本の背に本の番号秋深む
- 9 天窓に金の飾りや冬の朝
- 10 色鳥や露店に小さき車輪止め
- 11 春隣ドアの下より入る手紙
- 12 夏至祭のポール一気に立ち上がる
- 13 色のなき足跡続く春の雪
- 14 花冷や蓋硬く締め塩の瓶
- 15 春月を見つけし頬の湿りかな
- 16 塩漬けの魚の目濁る暮の春
- 17 鷹鳩と化す背表紙に小さき絵
- 18 詩の神の名を持つ道やゼラニウム
- 19 小春日や絵本の棚のよく廻る
- 20 画鋏刺す霜夜の深きところまで
- 21 長き夜や表紙の厚き本開く
- 22 銅像の掌に錆若葉冷
- 23 メモあまた貼られし壁や風光る
- 24 春寒や拭ひて厚き刃の脂
- 25 春灯の連なり湾を抱きけり
- 26 見るたびに野遊びの子の替りけり
- 27 ふらここの縄荒れてをり島の庭
- 28 夏霧へ深く入りたる舳先かな
- 29 緑陰や鉄扉導く蝶番
- 30 夏潮や教会の鐘揺れやまず